阿南町社会福祉協議会
まめだかな？
第108号
長野県下伊那郡阿南町西條709 「おげんきサルビアの郷」内
TEL(0260)22－3151

現場レポート ～No.6～

**まめな人達はお休みします。
次回をお楽しみに!!**

今回の現場レポートは、二月九日（土）に開催した「阿南町ボランティア大会２０１３」についてお伝えします。今回のメインは関靖さんの講演会です。実際にご自身の母親を介護された経験を交えて、認知症と介護について熱くも楽しく語られました。これから少しですが、講演の内容を皆様にご紹介したいと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

私の人生設計の中で、母が認知症になるということは思いもしませんでした。突然でどうしたらいいのかという所から勉強が始まりました。認知症を勉強し始めた理由は、母を理解することで見えてくるものがあるのではという思いからです。

母を理解しようと色々な講演や勉強会へテープレコーダーを持ってあちこちへ出かけては、最前列でメモを取りつつ聞きました。時には話す内容に違和感を覚えて質問しても、返答に対して悔しい思いをする時もありました。

「認知症の人と家族の会」という全国組織があり一万人の会員がいますが、その内三百人はご本人が自身の意志で入会されています。私も母のことで困っていたところを救ってくれたのがこの会でした。

それでは認知症を正しく理解し、対応するための法則を紹介します。

第一法則は、単なる「年相応のもの忘れ」とは違うということ。新しいことが思い出せなくなってきます。また、出来事全体を記憶することが難しくなります。

第二法則は、身近な人に対して心を許すので、一番介護をしている人に対して遠慮することなく症状が現れるということです。

第三法則は、自分が思い出せないことを知られたくないので、事実を認めることが困難です。

第四法則は、しっかりした状態と思い出せない状態とがまだらになります。これが一番の特徴です。

第五法則は、言われたり、聞いたり、行ったことは思い出せないが、その時の感情は残像のように本人の心に残るということです。

第六法則は、こだわる思いが強くなり

「おおよそ」という行動が難しくなります。他の人に迷惑をかけたくないという思いから。

第七法則は、介護者の気持ちや態度が伝わりやすいので、大声で怒ったりされるとかえって拒否的な態度になります。

第八法則は、行動にはすべて根拠がはっきりとあるということです。つまり、理由がちゃんとあるということ。

第九法則は、衰えるスピードが二、三倍になるということです。

認知症の人への対応の原則は、たった一つ。それは、認知症になった人の心に思いを寄せ、緊張を与えないように優しく接することです。つまり、その人の世界を知り、共有することです。

ある時、母と妻と三人でドライブに出かけた際に、たまたま同じ場所にいた女性に「あんちゃん、いいことしてるね」と声をかけてくれたんです。その言葉で本当にホッとしました。涙が出るほどうれしかったです。そういう温かみのある地域であって欲しいなとつくづく思いました。こうして皆さんの前でお話をさせてもらっていますが、これも息子へ母からの最期のしつけかなと思えます。これまで考えもしなかったような人生のことを考えるようになったのは、誰でもない母のおかげと思っています。

（林　義勝）

グループホームまめだかな

まめだより

皆様、まだまだ寒い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。さて、一月十三日にまめだかな横の駐車場で田上地区のどんど焼きが行われました。まめの利用者さんたち、田上地区の方々、高齢者生活福祉センターみさとの皆さんと一緒におんべの火を囲みました。当日は天候に恵まれたなか、行うことができました。

お餅を焼いてお汁粉にしたり、おろし大根につけて食べると利用者さんたちはとてもおいしかった様子で、お茶代わりのはずがすっかりお昼ご飯になる程おなかも満たされ、大満足のどんど焼きとなりました。田上地区の方々にも色々と差し入れをいただき、利用者さんもおいしく頂きました。ありがとうございました。

また、二月六日には、子育て支援室の南島美知子先生が「オードリーみちこ」としてまめだかなに来て下さり、手品や紙芝居などで利用者さんたちを楽しませてくれました。

コップに赤や緑の水が入っていたものが、あっという間に色テープに早変わり！ちなみに小さい鳩も登場しました（笑）

（林　大介）

サルビア通信

笑い転げた新年会 鬼の凄味にビックリ節分会

「ええ～い、控えおろう！この紋所が目に入らぬか！先の副将軍水戸光圀公なるぞー!!」

毎年恒例になりました新年会を行いました。

今年は昨年にも増して盛り上がるよう、銭太鼓と花笠踊りを毎日催しました。そして最も盛り上がったのは、二十二日（火）に行った、かの有名な副将軍「黄門様御一行」…に扮したデイサービス職員による「水戸黄門」!!デイサービスオリジナルの物語に皆さん見入って、懐から印籠を出す名場面、「この紋所が目に入らぬか」という決め台詞。大きな拍手が起こり「サルビアには芸人がたいへんおるなあ」と喜ぶ人も沢山おり、この他にも餅花を作ったり、職員による野球拳・羽根つきを行いました。

二月には、節分会を行いました。今では家でやることの少なくなってきた豆まき、「鬼は外、福は内」と豆を撒いていると、ある方がこっそり「隣のばばぁ欲深ばばぁって言うんだに」と教えてくれたりなど〈笑〉鬼退治の後は、一緒にカラオケそしておみくじを引きました。

皆さんとても充実した時間を過ごせ、今年の鬼も見事に追い払う事も出来た様子です。今年も皆さんまめでお過ごし下さい。

（湯川　三幸）

よしこの昔話

（第14話）

このお話は
清川よしこさん（御供在住・九十六歳）が
幼き頃、先人より伝えられた昔話です

昔、ある所に薬を行商する男の人が住んでおりました。

ある日、行商に行き菖蒲の茂った大きな池を歩いていますと、きれいな娘が倒れて苦しんでおりました。男は急いで抱き起し、家に連れ帰りました。

気が付いた娘に男が「何処に行くのか」と訊きますと、「行くお家が無いからここにおいてください」というので、可哀想になり、家に置いてやることにしました。

娘はよく働きますが、不思議なことに、ご飯を少しも食べません。男は不思議に思い、ある日商売に行く振りをして隠れて見ておりました。

やがて、娘はお釜いっぱいのご飯を炊き始めました。炊き上がるとそれを全部おにぎりにしました。そして、見る間に娘は蛇になって、頭を持ち上げて大きな口をあけ、その中へおにぎりを全部放り込み、全部食べてしまいました。

男は驚いて逃げようとして、物に躓いて倒れてしまいました。

すると娘は、「見たな！」といって追いかけてきます。

男は一生懸命逃げましたが、娘は蛇の姿のまま、ものすごい勢いで追いかけてきます。

今にも追いつかれそうになった時、男は池も辺りまで来ていました。菖蒲がいっぱい生えておりましたので、男は急いでその中に逃げ込みました。すると蛇は見つけることが出来ず、諦めて行ってしまいました。男は菖蒲のお蔭で命が助かりました。

それから菖蒲は魔除けになると言って、男の子のお節句には菖蒲とヨモギを飾るのだそうです。そして、屋根にも挿します。

「乱れたる浮世の
　重みに耐えかねて
心の糸はほころびにけり」
よしこ

寄贈のお礼

●平成24年度10.11.12月野菜等頂も物（職員以外）頂いた食材は、余すところなくデイサービスの昼食や配食サービス弁当の貴重な材料として使わせていただきました。有難う御座いました。

野村忠実様	雲雀澤
木下　元様	北条
伊藤千文様	小中尾
松澤悦子様	深見
その他匿名様	５名

浄財の御礼

故 位髙ふ志ゑ様(門原)のご家族より多額の浄財を賜りました。紙面を通じ御礼申しあげます。
有難うございました。

編集後記

皆様、お久しぶりでございます。今回、ピンチヒッターということで二年振りとなる編集をしましたが、出来映えはいかがだったでしょうか。時が経つのは早いもので、私が社協にお世話になってからこの春が来て、丸八年になります。気が付けば三十路で花の独身族となっております。最近は「早くいい人見つけな」と貴重な声をかけてくれる人が数多くおり、感謝している毎日です。いつか、良い報告が出来るよう頑張りたいと思いますので、皆様応援よろしくお願い致します（笑）

（林　義勝）